

2014/3/7

## 柏の景気情報（平成26年2月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課  
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18  
TEL : 04-7162-3305  
FAX : 04-7162-3323  
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>  
E-mail : [info@kashiwa-cci.or.jp](mailto:info@kashiwa-cci.or.jp)

## 柏の景気情報（平成26年2月分）

○ 調査期間 : 平成26年2月24日 ~ 2月28日

○ 調査対象 : 柏市内156事業所及び組合にヒアリング

### ＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	85	54.5%
建設	44	24	54.5%
製造	33	18	54.5%
卸・小売	43	28	65.1%
サービス	36	15	41.7%

○ 調査方法 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。  
と調査表

### 質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

### 質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合$$

#### ※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

#### ※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成26年2月の調査結果のポイント】

《業況DIは悪化 消費税増税への懸念と大雪の影響大きく》

○2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲17.6(前月水準▲2.2)となり、マイナス幅が▲15.4ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲35.7(同▲40.6)である。プラス幅が縮小した業種は、製造業±0.0(同22.2)であり、プラス幅が▲22.2ポイントと大幅に縮小した。プラスからマイナスに転じた業種は、建設業▲16.6(同29.1)であり、▲45.7ポイントと大幅に悪化した。マイナス幅が拡大した業種は、サービス業▲6.6(同±0.0)である。

【建設業】からは、「仕入れ値の上昇、経費の増加(ガソリン他)で利益は薄い。4月からの受注の動向がつかめない」(電気工事業)、「大手ゼネコンの受注単価の低さに工事を請けていいものか判断しかねる。交渉しても判断がおそくほんとに景気が良くなっているのか疑う」(塗装工事業)、「取引先において部門(営業エリア)等の統括が予定されており、発注控え等がある。発注予定もずれている。しかし作業変更による工事発注が増えており売上高はあまり変わらず」(電気工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「工業用ガス類や鋼材の値上げ要求は、以前より増して頻度が高くなっています(間隔が狭くなっている)。又、これまでは先行き(見通し)の話が出ることは無かったが、既に「〇月には値上げする予定」…と、予告付きとなっています。背景としては、電気料金・為替の影響です。機械の受注に関しては、引き合いはまずまずですが、競合があるため競わされるのが常です」(その他の機械・同部品製造業)、「かつての経済成長のこだわりを捨てて検討すべき時期が来ていると思う」(印刷業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「2月中旬から大口の特注品の注文が好調。よって前年同月よりも売上高増加」(菓子・パン小売業)、「2月に入り原油は多少下落傾向ではあるが、1月に値上げしてもかぶっていた期間が長すぎ、今期も赤字を解消するには至らない」(燃料小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「宿泊は客単価は下がるが柏駅前のホテルを含めビジネスの増加により稼働が上がり、2年前から比較すると収益は順調に推移出来るようになった。宴会は大雪により大型宴会のキャンセルにより予算・昨対を含め大きく減少となるが、雪のキャンセルが無ければ昨年並みを維持原油の値上げにより水光熱費が上がる」(ホテル)、「GW需要は前半の3連休と後半の4連休に分散している。国内は前半プラス。海外はマイナス。全体需要としては消費税増税後、特に法人営業への影響が心配」(旅行業)などのコメントが寄せられた。

◎消費税増税

各業種から、「前月に引き続き消費税増税前の仮需と思われる商品の動きあり。増税後(4月以降)については不透明」(酒類製造業)、「今月は、まだ増税前で昨年と変わらず、4月以降は増税の影響はあると思われる、増税分の添加は難しそう、仕入は確実にあがると思われます、利益率の削減やむ終えなし資金繰りが厳しくなりそう」(時計・眼鏡・光学機械小売業)、「4月からの消費税8%に向け準備作業が始まりました。値札の表示など税金分が変更になり、POPや値札の取替え作業の打合せを実施。今のところまだ買いため等にはなっていない」(その他の各種商品小売業)、「4月からの消費税率引き上げで以降も段階的に引き上げとなるとテナントや駐車場等の消費税対象賃料の外税化が賢明。その他、今後の税制改正に合わせ租税もしっかりコストとしてこれまで以上に把握していく必要があると考えています」(不動産賃貸・管理業)などのコメントが寄せられた。

◎大雪の影響

各業種から、「時計・宝飾品の高額品の動きが活発になるものの、婦人衣料は苦戦。また積雪影響がバレンタイン商戦を直撃、食品売上高も伸び悩む」(百貨店)、「2度の大雪により大幅客数減少。特に雪の日から3日間は全く客足が遠のき、その分が売上減少に拍車をかけた」(婦人・子供服小売業)、「週末の天候不順、大雪など売上大幅減。さらに商品少なく仕入れ値が上昇。4月の増税はさらに厳しさが増すのではと懸念されます」(花・植木小売業)、「2月の実働営業日の少なさに涙です。雪かきなど大雪の影響もあり過去最低の売上」(酒場・ビヤホール)などのコメントが寄せられた。

◎人手不足

各業種から、「引渡しが3月中旬に集中の為、人手不足、現場全体が回らない」(管工事業)、「例年年度末は同じ状況では有るが、年度末、職人不足、材料納期遅れによる行程の大幅な遅れ、それに止めを刺す消費税の増税の為の工期縮小により、異常ともいえる状態が続いている」(石工れんがタイルブロック工事業)、「消費税増税前の契約・着工依頼が多い。不景気により工場生産を縮小、増税による物件増加に材料メーカーが対応できず、材料不足が続いている。また不況による廃業・転換の為の職人不足に加え、高齢化による引退、若い人達の職人離れが進み、今後の人手不足も続きそうだ」(その他の職別工事業)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
9月	▲22.5	△7.6	▲22.2	▲50.0	▲17.6
10月	▲12.7	△25.0	±0.0	▲41.9	▲26.6
11月	▲14.9	△8.3	△6.6	▲45.4	▲6.6
12月	▲14.4	△13.6	±0.0	▲37.1	▲16.6
1月	▲2.2	△29.1	△22.2	▲40.6	±0.0
2月	▲17.6	▲16.6	±0.0	▲35.7	▲6.6
見通し	▲20.0	▲16.6	▲22.2	▲35.7	△6.6

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成26年2月の業況についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲17.6(前月水準▲2.2)となり、マイナス幅が▲15.4ポイント拡大した。

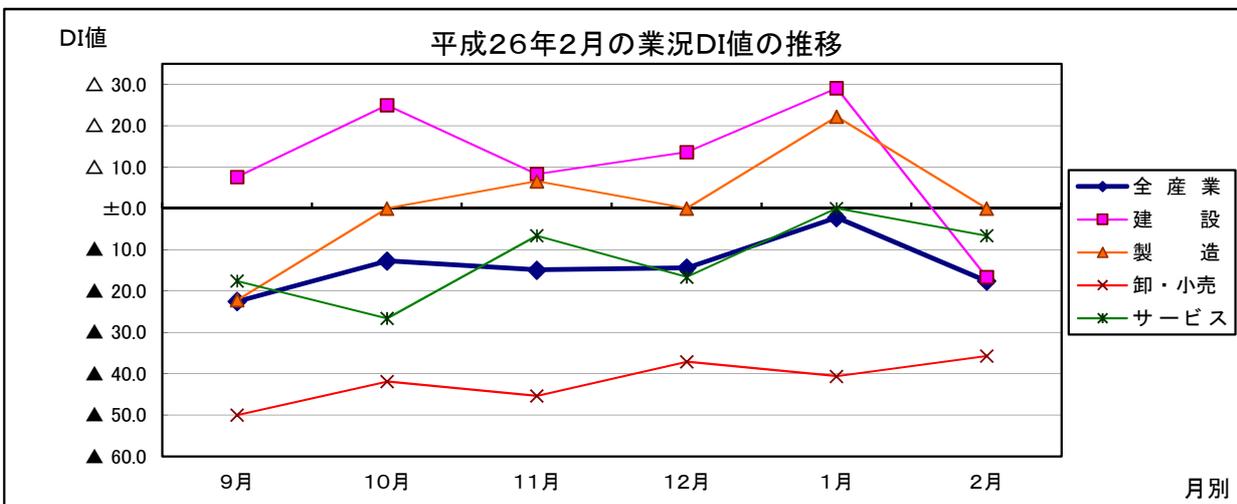
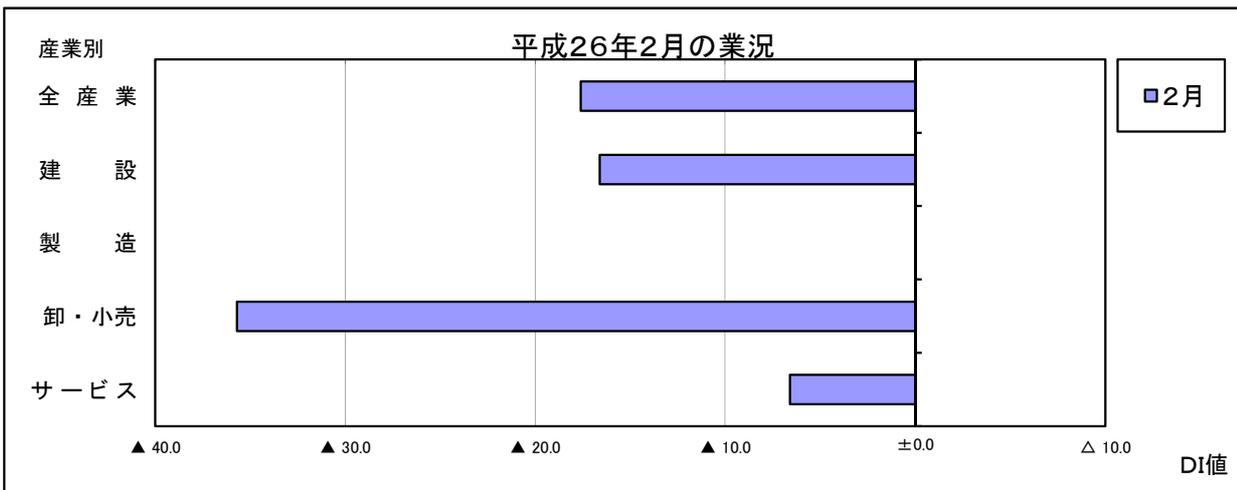
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲35.7(同▲40.6)である。プラス幅が縮小した業種は、製造業±0.0(同22.2)であり、プラス幅が▲22.2ポイントと大幅に縮小した。プラスからマイナスに転じた業種は、建設業▲16.6(同29.1)であり、▲45.7ポイントと大幅に悪化した。マイナス幅が拡大した業種は、サービス業▲6.6(同±0.0)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲20.0(前月水準▲10.0)となり、マイナス幅が▲10.0ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、サービス業6.6(同▲6.2)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、建設業▲16.6(同16.6)であり、▲33.2ポイントと大幅に悪化する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲22.2(同▲5.5)、卸小売業▲35.7(同▲34.3)である。

平成26年2月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成25年 9月	10月	11月	12月	平成26年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲22.5	▲12.7	▲14.9	▲14.4	▲2.2	▲17.6	▲20.0(▲10.0)
建設	△7.6	△25.0	△8.3	△13.6	△29.1	▲16.6	▲16.6(△16.6)
製造	▲22.2	±0.0	△6.6	±0.0	△22.2	±0.0	▲22.2(▲5.5)
卸・小売	▲50.0	▲41.9	▲45.4	▲37.1	▲40.6	▲35.7	▲35.7(▲34.3)
サービス	▲17.6	▲26.6	▲6.6	▲16.6	±0.0	▲6.6	△6.6(▲6.2)



【平成26年2月の売上についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲7.0(前月水準2.2)となり、マイナス方向へ▲9.2ポイント拡大した。

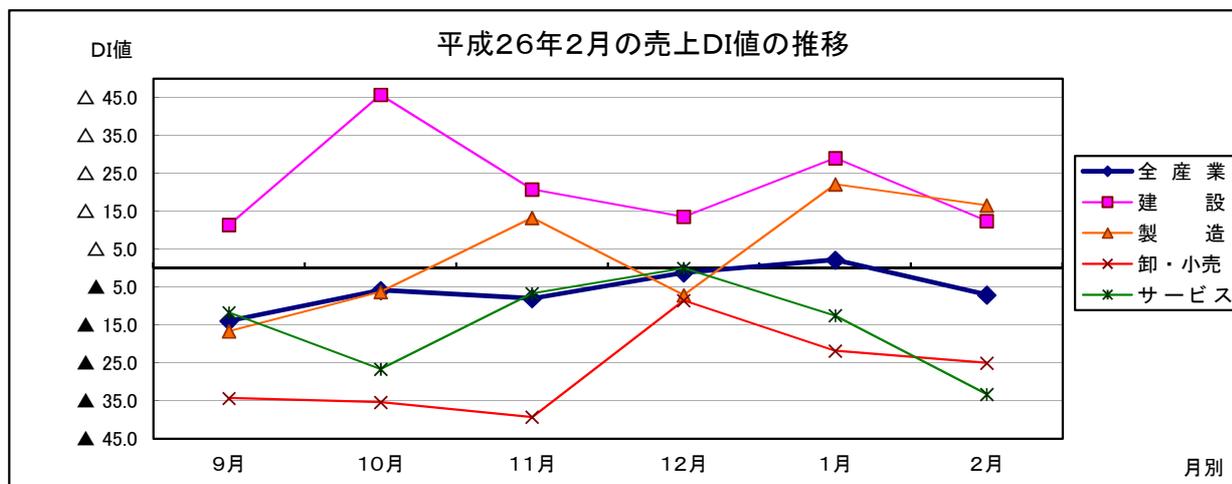
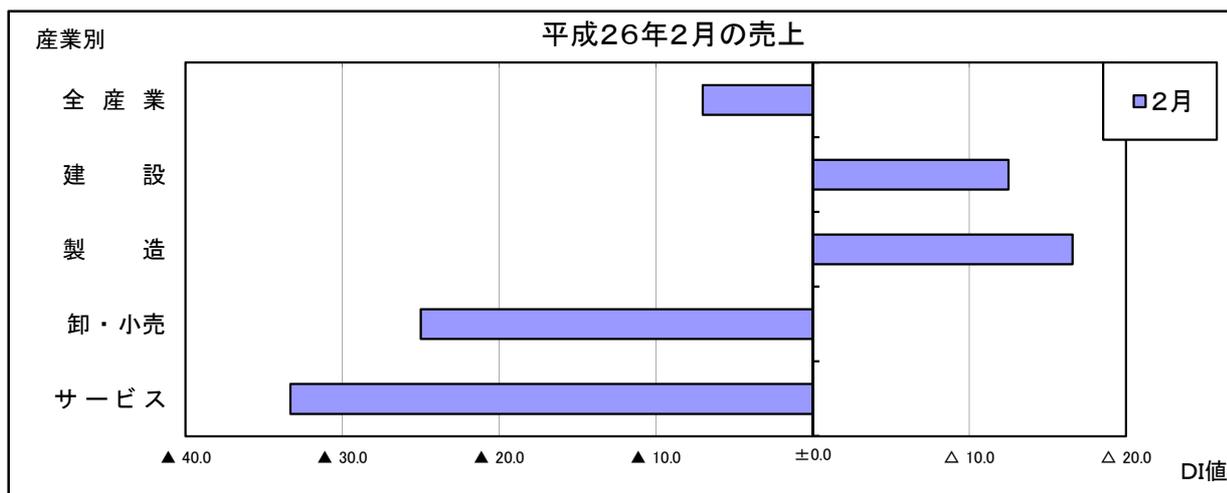
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業12.5(同29.1)、製造業16.6(同22.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲33.3(同▲12.5)、卸小売業▲25.0(同▲21.8)である。特に、サービス業はマイナス幅が▲20.8ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲9.4(前月水準▲14.4)となり、マイナス幅が5.0ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業±0.0(同▲18.7)、製造業▲5.5(同▲11.1)である。変らない見通しの業種は、建設業8.3(同8.3)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲32.1(同▲31.2)である。

平成26年2月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成25年 9月	10月	11月	12月	平成26年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲13.9	▲5.8	▲8.0	▲1.2	△2.2	▲7.0	▲9.4(▲14.4)
建設	△11.5	△45.8	△20.8	△13.6	△29.1	△12.5	△8.3(△8.3)
製造	▲16.6	▲6.2	△13.3	▲7.1	△22.2	△16.6	▲5.5(▲11.1)
卸・小売	▲34.3	▲35.4	▲39.3	▲8.5	▲21.8	▲25.0	▲32.1(▲31.2)
サービス	▲11.7	▲26.6	▲6.6	±0.0	▲12.5	▲33.3	±0.0(▲18.7)



【平成26年2月の採算についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲25.8(前月水準▲20.0)となり、マイナス幅が▲5.8ポイント拡大した。

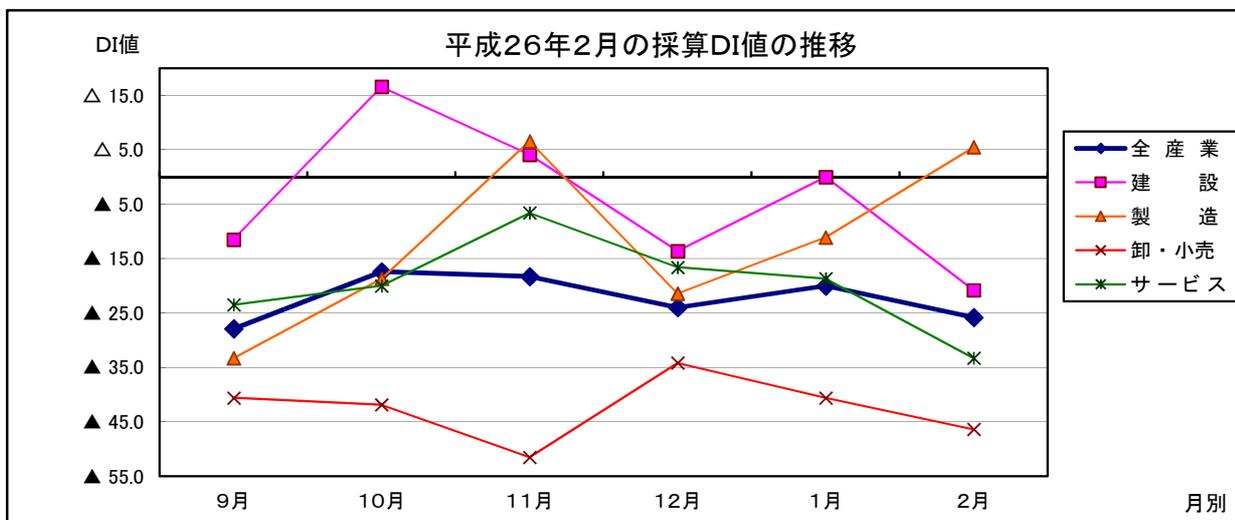
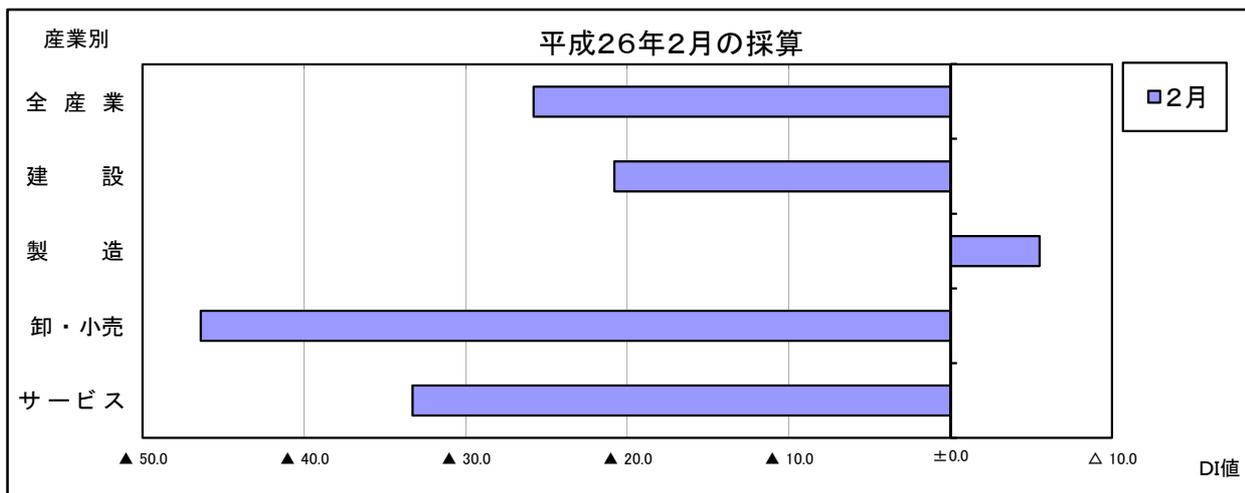
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、製造業5.5(同▲11.1)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲20.8(同±0.0)、サービス業▲33.3(同▲18.7)、卸小売業▲46.4(同▲40.6)である。特に、建設業はマイナス幅が▲20.8ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲22.3(前月水準▲30.0)となり、マイナス幅が7.7ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、すべての業種においてマイナス幅が縮小する見通しであり、幅の大きい順に、サービス業▲6.6(同▲25.0)、建設業▲4.1(同▲12.5)、製造業▲22.2(同▲27.7)、卸小売業▲46.4(同▲46.8)である。

平成26年2月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成25年 9月	10月	11月	12月	平成26年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲27.9	▲17.4	▲18.3	▲24.0	▲20.0	▲25.8	▲22.3(▲30.0)
建設	▲11.5	△16.6	△4.1	▲13.6	±0.0	▲20.8	▲4.1(▲12.5)
製造	▲33.3	▲18.7	△6.6	▲21.4	▲11.1	△5.5	▲22.2(▲27.7)
卸・小売	▲40.6	▲41.9	▲51.5	▲34.2	▲40.6	▲46.4	▲46.4(▲46.8)
サービス	▲23.5	▲20.0	▲6.6	▲16.6	▲18.7	▲33.3	▲6.6(▲25.0)



【平成26年2月の仕入単価についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲49.4(前月水準▲48.8)となり、マイナス幅が▲0.6ポイント拡大した。

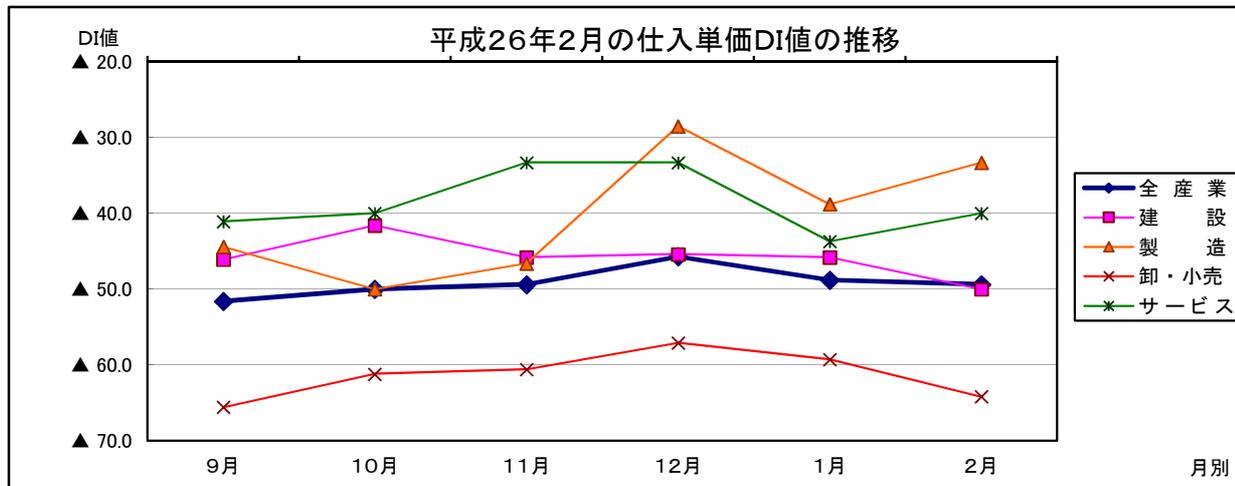
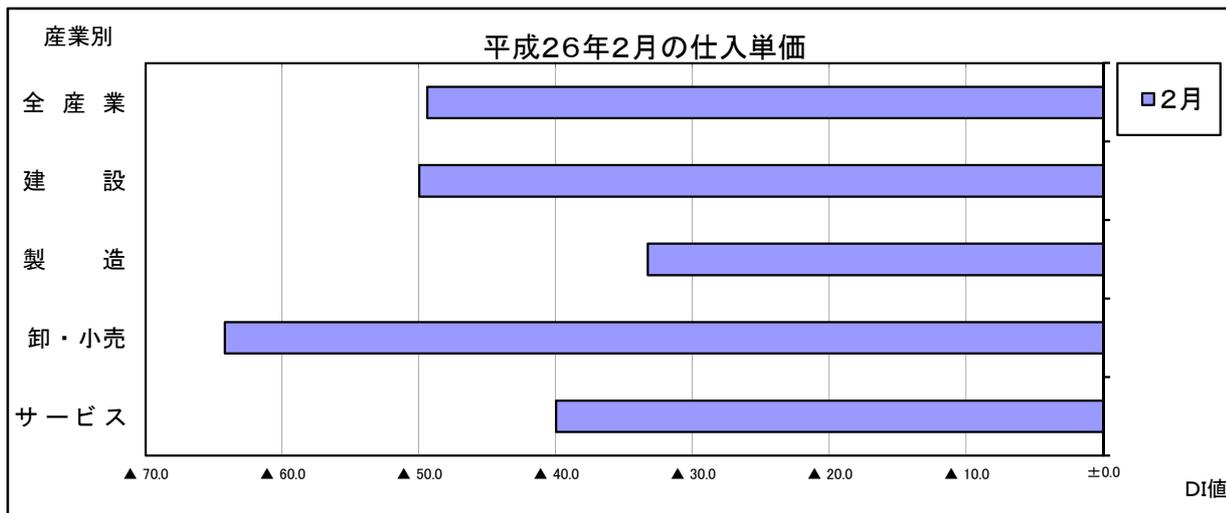
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲33.3(同▲38.8)、サービス業▲40.0(同▲43.7)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲64.2(同▲59.3)、建設業▲50.0(同▲45.8)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲44.7(前月水準▲45.5)となり、マイナス幅が0.8ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲20.0(同▲43.7)、卸小売業▲60.7(同▲62.5)である。特に、サービス業はマイナス幅が23.7ポイントと大幅に縮小する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲27.7(同▲16.6)、建設業▲54.1(同▲45.8)である。

平成26年2月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成25年 9月	10月	11月	12月	平成26年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲ 51.6	▲ 50.0	▲ 49.4	▲ 45.7	▲ 48.8	▲ 49.4	▲ 44.7 ( ▲ 45.5 )
建設	▲ 46.1	▲ 41.6	▲ 45.8	▲ 45.4	▲ 45.8	▲ 50.0	▲ 54.1 ( ▲ 45.8 )
製造	▲ 44.4	▲ 50.0	▲ 46.6	▲ 28.5	▲ 38.8	▲ 33.3	▲ 27.7 ( ▲ 16.6 )
卸・小売	▲ 65.6	▲ 61.2	▲ 60.6	▲ 57.1	▲ 59.3	▲ 64.2	▲ 60.7 ( ▲ 62.5 )
サービス	▲ 41.1	▲ 40.0	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 43.7	▲ 40.0	▲ 20.0 ( ▲ 43.7 )



【平成26年2月の従業員についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、9.4(前月水準11.1)となり、プラス幅が▲1.7ポイント縮小した。

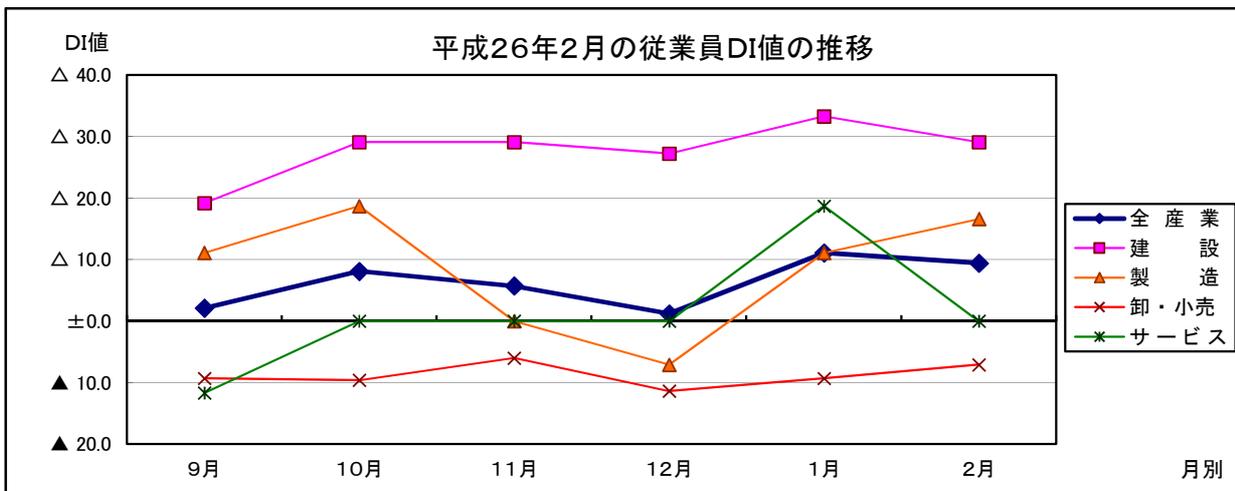
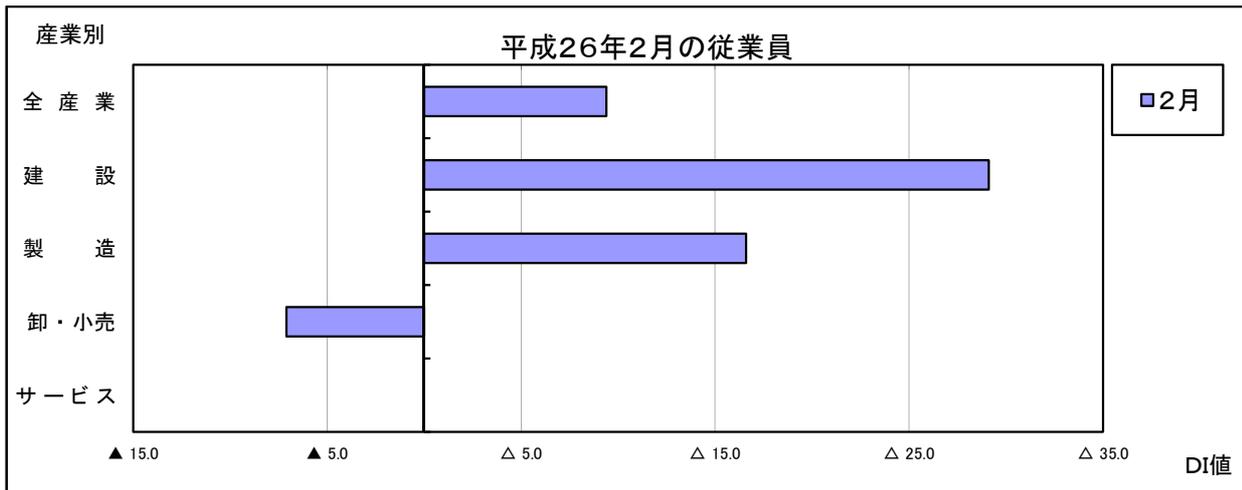
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、製造業16.6(同11.1)である。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲7.1(同▲9.3)である。プラス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業±0.0(同18.7)、建設業29.1(同33.3)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、7.0(前月水準5.5)となり、プラス幅が1.5ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、建設業33.3(同25.0)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業±0.0(同▲5.5)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業±0.0(同6.2)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲7.1(同▲3.1)である

平成26年2月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成25年 9月	10月	11月	12月	平成26年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	△ 2.1	△ 8.1	△ 5.7	△ 1.2	△ 11.1	△ 9.4	△ 7.0 ( △ 5.5 )
建設	△ 19.2	△ 29.1	△ 29.1	△ 27.2	△ 33.3	△ 29.1	△ 33.3 ( △ 25.0 )
製造	△ 11.1	△ 18.7	±0.0	▲ 7.1	△ 11.1	△ 16.6	±0.0 ( ▲ 5.5 )
卸・小売	▲ 9.3	▲ 9.6	▲ 6.0	▲ 11.4	▲ 9.3	▲ 7.1	▲ 7.1 ( ▲ 3.1 )
サービス	▲ 11.7	±0.0	±0.0	±0.0	△ 18.7	±0.0	±0.0 ( △ 6.2 )



【平成26年2月の資金繰りについての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲12.9(前月水準▲10.0)となり、マイナス幅が▲2.9ポイント拡大した。

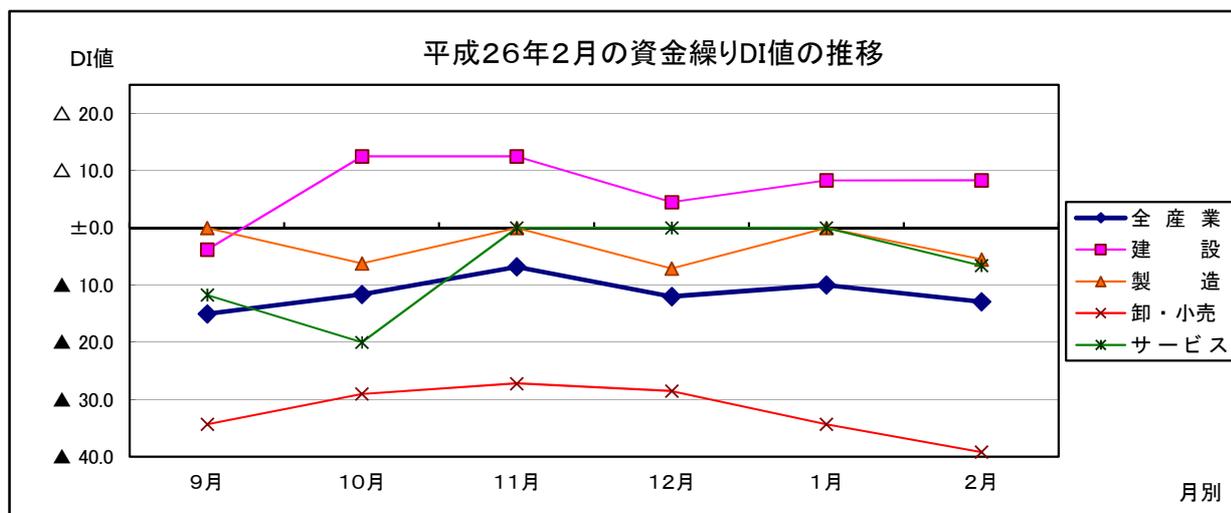
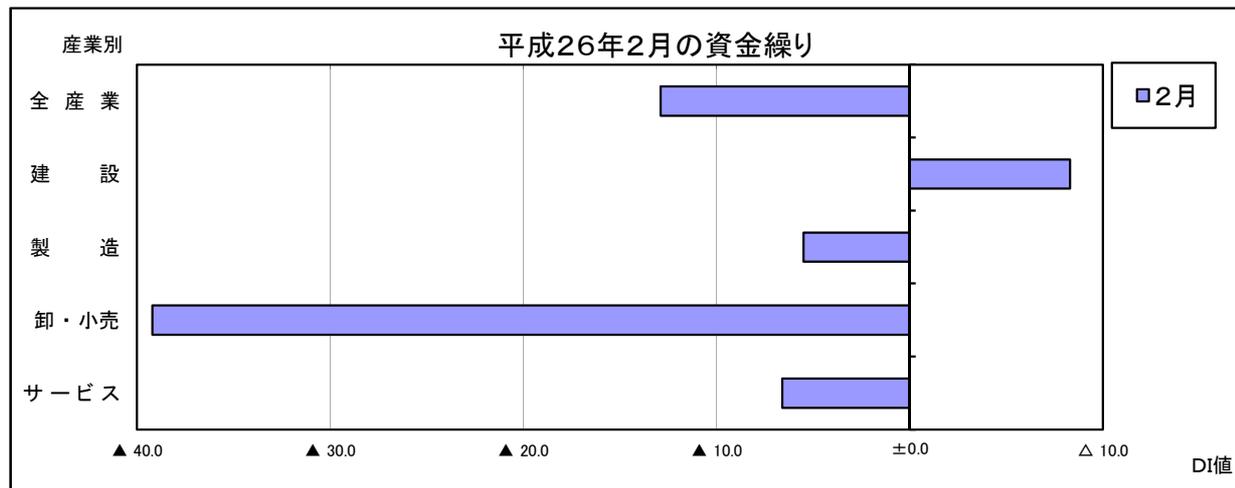
業種別では、前月水準と比べて、変らない業種は、建設業8.3(同8.3)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲6.6(同±0.0)、製造業▲5.5(同±0.0)、卸小売業▲39.2(同▲34.3)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲10.5(前月水準▲14.4)となり、マイナス幅が3.9ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、建設業12.5(同▲4.1)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲11.1(同▲5.5)、卸小売業▲32.1(同▲31.2)、サービス業▲6.6(同▲6.2)である。

平成26年2月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成25年 9月	10月	11月	12月	平成26年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲15.0	▲11.6	▲6.8	▲12.0	▲10.0	▲12.9	▲10.5(▲14.4)
建設	▲3.8	△12.5	△12.5	△4.5	△8.3	△8.3	△12.5(▲4.1)
製造	±0.0	▲6.2	±0.0	▲7.1	±0.0	▲5.5	▲11.1(▲5.5)
卸・小売	▲34.3	▲29.0	▲27.2	▲28.5	▲34.3	▲39.2	▲32.1(▲31.2)
サービス	▲11.7	▲20.0	±0.0	±0.0	±0.0	▲6.6	▲6.6(▲6.2)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 7.0	▲ 9.4	▲ 25.8	▲ 22.3	▲ 49.4	▲ 44.7	△ 9.4	△ 7.0
建設	△ 12.5	△ 8.3	▲ 20.8	▲ 4.1	▲ 50.0	▲ 54.1	△ 29.1	△ 33.3
製造	△ 16.6	▲ 5.5	△ 5.5	▲ 22.2	▲ 33.3	▲ 27.7	△ 16.6	±0.0
卸・小売	▲ 25.0	▲ 32.1	▲ 46.4	▲ 46.4	▲ 64.2	▲ 60.7	▲ 7.1	▲ 7.1
サービス	▲ 33.3	±0.0	▲ 33.3	▲ 6.6	▲ 40.0	▲ 20.0	±0.0	±0.0

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 17.6	▲ 20.0	▲ 12.9	▲ 10.5
建設	▲ 16.6	▲ 16.6	△ 8.3	△ 12.5
製造	±0.0	▲ 22.2	▲ 5.5	▲ 11.1
卸・小売	▲ 35.7	▲ 35.7	▲ 39.2	▲ 32.1
サービス	▲ 6.6	△ 6.6	▲ 6.6	▲ 6.6

【平成26年2月の業種別業界内トピックス】

業種別	概況	キーワード	業種
建設業	嵐の前の静けさか雪の影響か4月以降の消費税アップ後の動きがみえない	大雪の影響 消費税増税	一般土木建築工事業
	人手不足	人手不足	土木工事業
	引渡し3月中に集中の為、人手不足、現場全体が回らない	人手不足	管工事業
	前工程の遅れがすべてしわ寄せとなり、すべてが重なっている。4月からの消費税の絡みもあり、途中の遅れがかなりひどいものにも係らず、最終引渡しは変わらず、虫食い状態の工事を余儀なくされている。例年年度末は同じ状況では有るが、年度末、職人不足、材料納期遅れによる行程の大幅な遅れ、それに止めを刺す消費税の増税の為に工期縮小により、異常ともいえる状態が続いている。それにより通常であれば損益分岐点を超える売上となるのに、採算は取れないという異常な状態であると思われる	消費税増税 引渡し時期 人手不足 材料納期遅延 工期縮小 不採算	石工れんがタイルブロック工事業
	仕入れ値の上昇、経費の増加(ガソリン他)で利益は薄い。4月からの受注の動向がつかめない	仕入れ値上昇 経費増加 受注動向	電気工事業
	特に変化無し		一般土木建築工事業
	消費税増税前の契約・着工依頼が多い。不景気により工場生産を縮小、増税による物件増加に材料メーカーが対応できず、材料不足が続いている。また不況による廃業・転換の為に職人不足に加え、高齢化による引退、若い人達の職人離れが進み、今後の人手不足も続きそう。施工単価の見直しは未だにされず、厳しい単価が続いており、むしろ上場企業の社内ベースアップや収益増のため、施工単価の見直しができない状況かとも取れる	消費税率増税 引渡し時期 材料不足 人手不足 施工単価見直し	その他の職別工事業
	大手ゼネコンの受注単価の低さに工事を請けていいものか判断しかねる。交渉しても判断がおそくほんとに景気が良くなっているのか疑う	大手ゼネコン 景況感不透明	塗装工事業
	取引先において部門(営業エリア)等の統括が予定されており、発注控え等がある。発注予定もずれている。しかし作業変更による工事発注が増えており売上高はあまり変わらず	発注控え 工期予定 売上不変 受注増加	電気工事業
	住宅メーカーからの新築、畳工事の受注がコンスタントに増えているのありがたいです。やはり一室は畳の部屋をと考えられる方が多いことに感謝	受注増加	内装工事業
製造業	6~7月頃まで仕事はあるがその後は先が見えない	先行き不透明	その他の職別工事業
	4月の消費税率8%に向け、消費者の動向が気になります	消費税率増税 消費者動向	畜産食料品製造業
	材料関係:工業用ガス類や鋼材の値上げ要求は、以前より増して頻度が高くなっています(間隔が狭くなっている)。又、これまでは先行き(見通し)の話が出ることは無かったが、既に「〇月には値上げする予定」...と、予告付きとなっています。背景としては、電気料金・為替の影響です。機械の受注に関しては、引き合いはまずまずですが、競合があるため競わされるのが常です。	材料燃料値上げ 受注安定	その他の機械・同部品製造業
	前月に引き続き消費税増税前の仮需と思われる商品の動きあり。増税後(4月以降)については不透明	消費税増税 先行き不透明	酒類製造業
	かつての経済成長のこだわりを捨てて検討すべき時期が来ていると思う。生かされるに必要な環境づくり、水、食料危機に関する対処技術開発など、基本的なところに目を向けていくことだと思う	技術開発	印刷業
	時計・宝飾品の高額品の動きが活発になるものの、婦人衣料は苦戦。また積雪影響がバレンタイン商戦を直撃、食品売上高も伸び悩む。	高額品好調 婦人衣料苦戦 大雪の影響 バレンタイン商戦 衣料売上不振	百貨店
2度の大雪により大幅客数減少。特に雪の日から3日間は全く客足が遠のき、その分が売上減少に拍車をかけた	大雪の影響 売上減少	婦人・子供服小売業	
今月は、まだ増税前で昨年と変わらず、4月以降は増税の影響はあると思われる、増税分の添加は難しそう、仕入は確実にあがると考えられます、利益率の削減やむ終えなし資金繰りが厳しくなりそう。	消費税増税 利益減少 資金繰り	時計・眼鏡・光学機械小売業	

【平成26年2月の業種別業界内トピックス】

卸小売業	4月からの消費税8%に向け準備作業が始まりました。値札の表示など税金分が変更になり、POPや値札の取替え作業の打合せを実施。今のところまだ買いだめ等にはなっていない	消費税増税 価格表示 買い溜め 受注好調	その他の各種商品小売業
	2月中旬から大口の特注品の注文が好調。よって前年同月よりも売上高増加	売り上げ増加	菓子・パン小売業
	雪による売上ダウン	大雪の影響 売上減少	菓子・パン小売業
	2月は2回の降雪による影響から青果物取引の野菜果実とも、入荷が減少し主要品目の一部に単価の高値が続いている状況で取引されています。例年だと春の野菜は、潤沢な生育となり順調な入荷が見込まれて、安定な価格で取引されるが、しばらくは入荷減少での高値の取引が続くものと予想されます。また3月はひなまつりやお彼岸、花見等で人手が予想され、消費が期待できる季節です。しかし4月からの消費税の改定が消費の減退につながらないように祈りたい	大雪の影響 青果物入荷減少 高値取引 消費税増税	食料・飲料卸売業
2月に入り原油は多少下落傾向ではあるが、1月に値上げしてもかぶっていた期間が長すぎ、今期も赤字を解消するには至らない	原油下落傾向 赤字解消	燃料小売業	
週末の天候不順、大雪など売上大幅減。さらに商品少なく仕入れ値が上昇。4月の増税はさらに厳しさが増すのではと懸念されます	天候不順 大雪の影響 売上減少 仕入れ上昇 消費税増税	花・植木小売業	
サービス業	2月の実働営業日の少なさに涙です。雪かきなど大雪の影響もあり過去最低の売上	大雪の影響 売上減少	酒場・ビヤホール
	宿泊は客単価は下がるが柏駅前ホテルを含めビジネスの増加により稼働が上がり、2年前から比較すると収益は順調に推移出来るようになった。宴会は8日(土)14日(金)の大雪により大型宴会のキャンセルにより予算・昨対を含め大きく減少となる(雪のキャンセルが無ければ昨年並みを維持原油の値上げにより水光熱費が上がる。	客単価減少 稼働率増加 大雪の影響 光熱費増加	ホテル
	GW需要は前半の3連休と後半の4連休に分散している。国内は前半プラス。海外はマイナス。全体需要としては消費税増税後、特に法人営業への影響が心配	ゴールデンウィーク 消費税増税 法人需要	旅行業
	大雪の影響でお客様からの問い合わせや来場が少なかったです。おかげさまで物件の仕入れは順調。3月度にかけて契約も増えて行きそうです	大雪の影響 客数減少 契約数増加	不動産管理業
	柏は地域経済に影響するイベントは柏まつりくらいなので各店舗の充実を図るしか無いと思います。小手先のイベントはナンセンス	地域イベント	不動産賃貸業
	4月からの消費税率引き上げで以降も段階的に引き上げとなるとテナントや駐車場等の消費税対象賃料の外税化が賢明。その他、今後の税制改正に合わせ租税もすっかりコストとしてこれまで以上に把握していく必要があると考えています。	消費税増税 コスト把握	不動産賃貸・管理業
年度末、突貫工事中。製造業受注案件が低迷、来年度は、激減が予想される。公共事業を期待するしかないかも、ただ、受注金額が低く維持が難しい。	製造業受注低迷 年度末突貫工事 公共事業 受注単価 維持困難	ソフトウェア業	

### ◎消費増税

- ・ 嵐の前の静けさか雪の影響か4月以降の消費増税後の動きがみえない 一般土木建築工事業
- ・ 4月の消費税率8%に向け、消費者の動向が気になります 畜産食料品製造業
- ・ 前月に引き続き消費増税前の仮需と思われる商品の動きあり。増税後(4月以降)については不透明 酒類製造業
- ・ 今月は、まだ増税前で昨年と変わらず、4月以降は増税の影響はあると思われる、増税分の添加は難しそう、仕入は確実にあがると考えられ、利益率の削減やむ終えなし資金繰りが厳しくなりそう。 時計・眼鏡・光学機械小売業
- ・ 4月からの消費税率8%に向け準備作業が始まりました。値札の表示など税金分が変更になり、POPや値札の取替え作業の打合せを実施。今のところまだ買いため等にはなっていない その他の各種商品小売業
- ・ 4月からの消費税率引き上げで以降も段階的に引き上げとなるとテナントや駐車場等の消費増税対象賃料の外税化が賢明。その他、今後の税制改正に合わせ租税もしっかりコストとしてこれまで以上に把握していく必要があると 不動産賃貸・管理業

### ◎大雪の影響

- ・ 時計・宝飾品の高額品の動きが活発になるものの、婦人衣料は苦戦。また積雪影響がバレンタイン商戦を直撃、食品売上高も伸び悩む。 百貨店
- ・ 2度の大雪により大幅客数減少。特に雪の日から3日間は全く客足が遠のき、その分が売上減少に拍車をかけた 婦人・子供服小売業
- ・ 2月は2回の降雪による影響から青果物取引の野菜果実とも、入荷が減少し主要品目の一部に単価の高値が続いている状況で取引されています。例年だと春の野菜は、潤沢な生育となり順調な入荷が見込まれて、安定な価格で取引されるが、しばらくは入荷減少での高値の取引が続くものと予想さ 食料・飲料卸売業
- ・ 週末の天候不順、大雪など売上大幅減。さらに商品少なく仕入れ値が上昇。4月の増税はさらに厳しさが増すのではと懸念されます 花・植木小売業
- ・ 2月の実働営業日の少なさに涙です。雪かきなど大雪の影響もあり過去最低の売上 酒場・ビヤホール

### ◎人手不足

- ・ 引渡し3月中に集中の為、人手不足、現場全体が回らない 管工事業
- ・ 例年年度末は同じ状況では有るが、年度末、職人不足、材料納期遅れによる行程の大幅な遅れ、それに止めを刺す消費増税の増税の為の工期縮小により、異常ともいえる状態が続いている。 石工れんがタイルブロック工事業
- ・ 消費増税前の契約・着工依頼が多い。不景気により工場生産を縮小、増税による物件増加に材料メーカーが対応できず、材料不足が続いている。また不況による廃業・転換の為の職人不足に加え、高齢化による引退、若い人達の職人離れが進み、今後の人手不足も続きそう。 その他の職別工事業

## 平成26年2月CCI - LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲17.6に対し、「CCI-LOBO」が▲7.7で柏の方がマイナス幅が9.9ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種はサービス業で10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は建設業、製造業、卸小売業で、製造業、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲7.0に対し、「CCI-LOBO」が△1.2で柏の方がマイナス方向へが8.2ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は製造業。「柏の景気」の方が悪い業種は建設業、卸小売業、サービス業で、卸小売業、サービス業は10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲25.8に対し、「CCI-LOBO」が▲13.2で柏の方がマイナス幅が12.6ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は製造業で、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は建設業、卸小売業、サービス業で、いずれも10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲49.4に対し、「CCI-LOBO」が▲49.4で同ポイントとなっている。「柏の景気」の方が良い業種は建設業、製造業、サービス業で、建設業と製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業で、10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△9.4に対し、「CCI-LOBO」が△9.9で柏の方がプラス幅が0.5ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は建設業、製造業で、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業、サービス業で、いずれも10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲12.9に対し、「CCI-LOBO」が▲9.7で柏の方がマイナス幅が3.2ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は建設業、サービス業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業、卸小売業で、卸小売業は10ポイント以上悪い。

# 平成26年2月の木の景気天気図

木の景気情報と全国CCI-LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI $\geq$ 50	好調 50>DI $\geq$ 25	まあまあ 25>DI $\geq$ 0	不振 0>DI $\geq$ ▲25	極めて不振 ▲25>DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 17.6	 ▲ 16.6	 ±0.0	 ▲ 35.7	 ▲ 6.6
CCI-LOBO	 ▲ 7.7	 △ 12.7	 △ 0.3	 ▲ 16.8	 ▲ 16.8

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 7.0	 △ 12.5	 △ 16.6	 ▲ 25.0	 ▲ 33.3
CCI-LOBO	 △ 1.2	 △ 16.1	 △ 9.3	 ▲ 8.5	 ▲ 7.2

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 25.8	 ▲ 20.8	 △ 5.5	 ▲ 46.4	 ▲ 33.3
CCI-LOBO	 ▲ 13.2	 ▲ 0.9	 ▲ 9.3	 ▲ 18.8	 ▲ 17.6

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 49.4	 ▲ 50.0	 ▲ 33.3	 ▲ 64.2	 ▲ 40.0
CCI-LOBO	 ▲ 49.4	 ▲ 67.1	 ▲ 51.8	 ▲ 39.1	 ▲ 45.5

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 △ 9.4	 △ 29.1	 △ 16.6	 ▲ 7.1	 ±0.0
CCI-LOBO	 △ 9.9	 △ 25.9	 △ 4.1	 △ 7.3	 △ 12.6

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 12.9	 △ 8.3	 ▲ 5.5	 ▲ 39.2	 ▲ 6.6
CCI-LOBO	 ▲ 9.7	 ▲ 5.7	 ▲ 3.3	 ▲ 14.3	 ▲ 16.7

  は「木の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

  は「木の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

# CCI - LOBO

## 商工会議所早期景気観測 (2月速報)

調査期間：平成26年2月14日～20日

調査対象：全国の419商工会議所が3147業種組合等にヒアリング調査を実施

### 全国の業況

業況DIは、業況DIは、一服、駆け込み需要への期待も、反動減など先行き不安が広がる

2月の全産業合計の業況DIは、▲7.7と、前月から▲4.6ポイントの悪化。個人消費では、消費税引き上げ前の駆け込み需要がみられるものの、東北・関東を中心とする記録的な大雪により、物流への支障や売上減少など、製造業・非製造業を問わず、影響は広範に及んだ。中小企業の景況感は、売上・受注の堅調な推移を背景に改善傾向が続いていたが、足元では、仕入コストや電力料金、人件費などの負担増に加え、駆け込み需要の反動減への警戒感が伺える。

先行きについては、先行き見通しDIが▲14.5（今月比▲6.8ポイント）と、大幅な悪化を見込む。消費税引き上げ前の駆け込み需要により、3月は衣料品や日用品など、小売業を中心に売上・受注の増加が見込まれるものの、仕入コストや電力料金、人件費などの負担増が続く中、4月以降、反動減による受注の落ち込みや消費マインドの低下などが見込ま

れ、中小企業においては先行きに対する警戒感が強まっている。

産業別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、全業種で悪化した。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「公共工事の労務単価が引き上げられ、入札不調の解消に期待できる。ただ、資材価格の高止まりもあり、依然として利益率は低い」（一般工事業）、「住宅などの着工が続くものの、徐々に落ち着き始めている。4月以降の反動減が心配」（一般工事業）、「社員の高齢化が進んでいるため、若年者を採用したいが応募がない」（建築工事業）

【製造業】「消費税引き上げ前の駆け込み需要により、寝具やカーテン、じゅうたんなどの増産が続く」（寝具・室内装飾品製造業）、「電機メーカーからの受注が増加し、人手不足の状況」（電気機械部品製造業）、「電力料金などの負担増加分を価格転嫁したいが、取引先との交渉が難航。収益改善が進まない

中、4月以降の受注の落ち込みが不安」（金属熱処理業）

【卸売業】「新幹線の建設をはじめ、公共工事は堅調。他方で、人手不足に伴い、着工や工期の遅れもみられ、自社への影響を懸念している」（建築材料卸売業）、「コンビニの出店攻勢や、大手スーパーの営業時間延長などにより、地元小売店の業況が悪化。自社の受注も減少している」（飲料・食料品卸売業）、「寒い日が続いたため、春物衣料の受注が例年より遅れており、売上が伸び悩んだ」（衣料品卸売業）

【小売業】「腕時計などの高単価が堅調に推移したほか、バレンタイン商戦が活況で、高価格帯商品の動きが良かった」（百貨店）、「2週連続で週末に大雪が降った影響により、来店客数が伸び悩み、売上が減少した」（服飾品販売店）、「冷蔵庫・洗濯機などの白物家電やパソコンの売れ行きが好調なもの、4月以降は売上の低迷が見込まれる」（家電販売店）

【サービス業】「大雪の影響で、高速道路の通行止めやトラックの立ち往生などがあり、荷物を運べず、取引に支

障が出た」（運送業）、「暖房費の負担が重く、収益を圧迫しているものの、3月から卒業・入学シーズンに入るため、売上増が期待できる」（飲食店）、「大雪に伴う鉄道やバスの運休等により宿泊キャンセルが相次ぎ、100万円以上の損失が出た」（旅館業）

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
9月	▲15.1	4.1	▲16.2	▲20.7	▲25.1	▲14.7
10月	▲11.9	18.2	▲13.7	▲17.5	▲22.8	▲18.4
11月	▲12.8	14.6	▲11.1	▲16.2	▲26.8	▲18.8
12月	▲7.4	14	▲2.4	▲10.6	▲24.2	▲9.1
1月	▲3.1	18.4	1.9	▲9.1	▲14.3	▲10.4
2月	▲7.7	12.7	0.3	▲15.3	▲16.8	▲16.8
見通し	▲14.5	▲1.3	▲8.7	▲17.8	▲32.0	▲10.2

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI